

アクティブ・ラーニングで高める コンピュータ・リテラシーと英語プレゼンテーション力 Computer Literacy and Presentation Skills in English with Active Learning

下山 幸成
東洋学園大学

概要

本論は、英語プレゼンテーション力をコンピュータ操作技能とともに高めることを意図した、アクティブ・ラーニング形態の授業実践報告である。アクティブ・ラーニング環境を作るため、教師は授業中の講義をしない。一斉に行うのは課題とその留意点を述べる程度であり、授業時間内はほとんど個別指導に徹し、学習者がしたいことはできるだけ実現できるようにアドバイスをする。学習者は、自分のプレゼンテーションビデオを見ての自己評価と他者評価コメントを参考にしながら省察することで、自分の目標や改善点を見出していく。結果として、学習者は英語のプレゼンテーションに慣れるだけでなく、表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを使う技能も高まり、社会に出て行くために必要なさまざまな能力をも自ら培っていく経験ができたと考えられる。その様子をアンケート結果とともに報告する。

キーワード： アクティブ・ラーニング, 英語プレゼンテーション, コンピュータ・リテラシー, ビデオ撮影, 自律した学習者

科目名	English through Multimedia (選択科目)
対象者とクラス人数	大学3・4年生 31名
学習の目標	さまざまな仕事現場で必要と考えられる視聴覚機器やソフトウェアの特徴や特質を理解し、その効果的な使用法を学ぶとともに、視聴覚の特徴を踏まえた上での効果的な発表能力(英語によるプレゼンテーション能力)を身につけること

1. はじめに

本稿は2014年度の後期に英語専攻の大学3・4年生を対象としてCALL教室で行った選択授業「English through Multimedia」の実践を報告するものである。本授業は、各学生が授業で与えられた課題に取り組みながら、社会人になる前に身につけておきたい様々なコンピュータ・リテラシーと効果的な英語プレゼンテーション力を身につけることを意図している。したがって、教師が一斉に行う講義形式ではなく、学生が積極的かつ主体的に参加する必要がある。自律した学習者を育てることを強く意識して授業を組み立てている。

2. アクティブ・ラーニング

文部科学省がウェブ上で公開している用語集によれば、アクティブ・ラーニングとは以下の定義の学習法である。

教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。

教室内での活動例としてグループで行うものが挙げられているが、グループで行わなくてもアクティブ・ラーニングは多くのことを学生に気づいてもらえる授業形態であり、講義形式では容易に扱えないものを多く含んでいると考えられる。そこで、この形態を活かす授業を組み立てた。

3. 授業内容

本授業では、3つの大きな課題がある。1つ目は夏休みの出来事から1つを選び、写真・音楽・動画などを取り込んだPowerPointを使いながら、英語のプレゼンテーションを行うものである。2つ目は各自が作成したアンケートの結果をPowerPointで紹介する英語プレゼンテーションである。最後の課題は、3つのヒントをPowerPointで作成し、聞き手とコミュニケーションをとりながら行う英語プレゼンテーションで

ある。これらのプレゼンテーションは全てビデオで録画し、フィードバックとして返却する。また、プレゼンテーションを聞いている学生は、英語発声（声量を含む）、アイコンタクト、発表内容を 5 段階で評価し、さらに一言コメントを Excel に入力しながら発表者を評価する。Excel ファイルは入力後に回収し、学生ごとのファイルに整形後、返却する。学生は発表の準備をしたり発表したりすることのほかに、他者の発表を数多く見て学ぶこと、自分の発表ビデオを後で見て振り返ること、他者の評価を参考にすることにより自分の発表のよかった点、改善点を考えることが要求される。

全 15 回のスケジュールと授業内容は表 1 のとおりである。

表 1 スケジュールと授業内容

回数	内 容
1	オリエンテーション。授業の目標確認。スケジュール・評価方法・注意事項などの説明。第3回授業時に行うプレゼンテーションの説明と準備・練習。
2	デジタルカメラやスマートホンで撮影した写真や動画の扱い方。プレゼンテーションの準備・練習
3	PowerPoint プレゼンテーション (1)
4	PowerPoint プレゼンテーション (1) の続き
5	PowerPoint プレゼンテーション (1) のフィードバック
6	アンケート作成方法と表・グラフの役割。自作アンケート作成。
7	自作アンケート作成。
8	他者のアンケートに回答。アンケートの集計
9	アンケートの集計。表・グラフを使った PowerPoint 作成
10	表・グラフを使った PowerPoint 作成
11	PowerPoint プレゼンテーション (2)
12	PowerPoint プレゼンテーション (2) の続きとフィードバック
13	聞き手を意識した 3-hint-quiz presentation の準備・練習
14	PowerPoint プレゼンテーション (3)
15	まとめと試験

3.1 第 1 課題：夏休みの出来事を1つ紹介する発表

夏休みの出来事を発表しなさいと指示を出すと、たいてい複数の話題が出てくる。本課

題では複数の内容ではなく 1 つの出来事に絞ることで、ものごとを深く掘り下げて考える力を育成することを意識している。PowerPoint に楽しかった写真や動画などを埋め込んだり、ここぞというところにアニメーション効果をつけたりすることで PowerPoint の技術を高めることも狙っている。また、全ての課題に共通していることだが、常に聞き手を意識した PowerPoint 作りと発表を強調している。

3.2 第 2 課題：自作アンケートに基づいた発表

この課題では、アンケート項目は 3 つ以上 5 つ以下と決めたほかに、タイトルは自分の知りたい 1 つのことを問うものであること、複数の項目をクロス集計することで個々の項目以上の内容がわかること、結論を述べること、が条件である。これは、英語の段落構成を意識している。また、設問の作り方、選択肢の作り方、集計の仕方、グラフの使い方までを含めて作成する必要があり、論理的な思考が要求される。回答はクラス内の他者が Excel ファイルに入力する。回答ファイルは教師が回収し、各学生別に結果の raw data をまとめてファイルで返却する。Excel で集計する際に使う関数、各種グラフの特徴と役割、PowerPoint でのグラフ編集方法、グラフを使った英語プレゼンテーションの表現集は、プリントを配付した。Excel の使い方に慣れていない学生は多いが、この作業をとおして最低限の使い方はマスターできるようにしている。

3.3 第 3 課題：3 つのヒントで何かを当てさせるクイズ形式の発表

最終課題は、3 つのヒントで人や物や場所を当てさせるクイズを作成するというものである。1 つ目のヒントは、ほとんどの人が当てられないが答えを聞いたときに聞き手が「なるほど」と思えるもの、2 つ目のヒントは 3 分の 1 から半分程度の学生が当てられるもの、3 つ目のヒントはほとんどの聞き手が答えを当てられるもの、とそれぞれ条件を決めている。また、発表しながら、アドリブを入れて、聞き手とのコミュニケーションをとりながら行うということも必要な課題である。事前に英語のアドリブで使えるような表現集は配付した。

この課題は、かなり聞き手を意識しないとできない課題である。また、使うであろう英語表現は簡単なものであるが、発表しながら聞き手とやり取りをするという負荷がかかる。

4. 最終試験と評価

試験の内容と評価方法は、第 1 回授業時にオリエンテーションとして説明している。試験の内容は、自分が行ったプレゼンテーションのビデオと他者評価を見ながら自分のプレ

プレゼンテーションのよかった点と改善点を記述するものである。具体的な内容は以下のとおりである。

1. 夏休みに関する最初のプレゼンテーションのビデオを今見て振り返り、自分のプレゼンテーションのよかった点、改善点を書きなさい。
2. 自作アンケートによるプレゼンテーション作成過程で学んだこと、得たことを書きなさい。
3. 自作アンケートによるプレゼンテーションのビデオを今見て振り返り、自分のプレゼンテーションのよかった点、改善点を書きなさい。他者評価、および個人平均・全体平均を参考にすること。
4. 最後のクイズ形式のプレゼンテーション作成過程で学んだこと、得たことを書きなさい。
5. 最後のクイズ形式のプレゼンテーションのビデオを今見て振り返り、自分のプレゼンテーションのよかった点、改善点を書きなさい。他者評価を参考にすること。
6. この授業全体を通して学んだことをできるだけ多く箇条書きで書き出さない。

評価は、実際に行った英語プレゼンテーションの内容と最終試験の結果で行う。プレゼンテーションの評価は、学生が行った他者評価と、同じ項目を使った教師の評価を 50%ずつ使う。最終試験は、どれだけ自分のプレゼンテーションを客観的に分析できているかを評価する。

5. アンケート結果

最終授業日にはアンケートも実施した。最終試験と同じ日に実施しているため、テストに関係していると思われないように、成績とは全く関係がなく、教員の授業改善に使うために協力してほしいと強調して実施した。項目は次のとおりである。

1. この授業でパワーポイント作成などメディアに対する技能が高まったと思いますか。
2. この授業で英語プレゼンテーション技能が高まったと思いますか。
3. この授業を後輩に薦めたいと思いますか。理由とともに書いてください。

1. に関しても 2. に関しても全員が高まったと回答している。また、3. に関しても全員が

後輩に薦めたいと回答している。3. に対する回答は本実践の結果を示していると考えられるため、以下に全てを原文のまま掲載する。

- ・薦めたいと思います。たくさんの方の前で話す機会が普段の暮らしの中でなかなかないので、この経験からすこし人前で堂々と話せるようになると思うことからです。就職活動で面接やグループディスカッションで人前で話すときに、大勢の前で英語を使ってプレゼンテーションをした経験が役立つはずですが、先生に丁寧にパソコンを教えていただいたので前よりもパソコンの技術が上がることも理由の一つです。
- ・薦めたいと思う。英語で作るパワポは自分の英語力の向上にも繋がり、人前で発表することで他の授業での発表に生かすことができ、また就職活動においても人前で話すことの訓練になるだろうと思ったからである。
- ・勧めたいと思う。特に自分のようにあがり症のひとは、社会に出る前に、この授業でみんなの前に立ち、大きな声で喋る練習が必要だと思う。単位を取るためだけでなく、自分の苦手なことをあえてやり続け、少しでも向上すれば自信につながると思う。
- ・薦めたい。プレゼンテーションは社会で必要な能力であり、必ず身に付けておいた方がよい。また、就職活動でもプレゼンテーション能力が活かされる場面が何度もあった。授業内で何度も発表を行うので経験が積めるのはとてもありがたかった。
- ・私は薦めたいと思う。理由は就活活動を通して相手に自分の言いたいことや思っていることをわかりやすく効果的に伝えるにはどうしたらいいのか考える機会が多かったからである。その悩みに対して、この授業は自分が緊張している状態で尚且つ英語で伝えたいことを発表しないといけないので自分の改善点を見つけことができる良いきっかけになると思うし、授業でみつけた改善点を見つめなおすことは社会に出てから大変役に立つと思った。私は就活が終わった4年生になってから受講したがぜひ就職活動が始まる前の学年の間に受講し、改善点を就活に活かしてほしいと思った。
- ・薦めたい。普通の授業ではなかなかプレゼンをする機会もなければ人前で発表することもない。しかし、社会人になればそれが当たり前になる。何も勉強せずに話そうとしてもうまくいかない。私自身知っている人前でさえあまりうまくいかないのに上司などの前でうまくいくはずがない。このような授業で場数を踏めばプレゼンの技能もあがるだろうし人前で話すことの苦手意識も少しは解消されるだろう。何事も経験だと思う。このような授業があることはとてもありがたいし積極的にうける価値はあると思う。
- ・薦めたいです。なぜならプレゼンは社会にでたら必ずやることだと思うので、学生のうちに数をこなして慣れていくことが必要だと思うからです。英語でプレゼンをすることも英文科ならではのことですし、ほかの学生のプレゼン力も参考になれるのでとても自

分のためになる授業だと思うからです。

- ・発表や、人の前に立つことが好きな子には、積極的に薦めたい授業だと思います。また、そのようなことを苦手とする子でも、挑戦することによって個性や才能が開花するため、いいな、と思う気持ちがあるならぜひやってみたらと薦めたい授業であると思います。講義型の授業が多い中、自分が自ら作って発表できる、参加型、体験型という貴重な機会であることや、体でやってみることによって体験することによって、聞いているだけ、頭だけでは感じるができないものを体験できるし、実際に自分がやってみることによって、思っていたよりもできない！緊張する！などという発見も得られると思うからです。また、自分独自の案で自分の個性を生かしながらテーマに取り組んだり、資料を作ったり、発表したりするので、個性や才能を発見する、磨く、また開花させるよい練習、よい機会になると思うからです。
- ・プレゼンの授業だが、プレゼンだけに限らず様々なことが学べるので、積極的に進める。人前で話すことが苦手だった私でも頑張ることができたし、これから人前で発表する場面でも生かせるということを伝える。
- ・勧めたい。パワーポイントの使い方や、人前で話すことになれるだけでなく、たくさんの人の発表が聞けるから。今自分に足りないことは何かを自覚し、どうやったらそれを改善できるかを、他人の発表から学べるので、解決方法が具体的にイメージできる。
- ・薦めたい。なぜなら、この先就活でも社会人になっても、プレゼンテーションをする機会は避けては通れないから。将来のためにも、今この授業でたくさんプレゼンをし、慣れ、失敗し、自分の弱いところを知っておくべきだと思う。
- ・薦めたい。私は今まで人前で発表するということが苦手でしたが、何回も回数を重ねていくうちに慣れてきました。また、どうすれば簡潔に相手へ伝えたいことを伝えられるのかどうか意識して発表ができるようになりました。インターンシップ先でプレゼンをする場が多くあるので、その準備のために受けておいて損はないです。私もここで学んだわかりやすく相手の目を見ながら発表することに意識しながら、プレゼンをしたら企業の方から褒めていただきました。私は今後のことも考えるとやっておいた方がいい授業だと思います。
- ・薦めたいと思う。これから社会に出るにあたって職種にもよるが、パワポやワードやエクセルは使えて当たり前になってきていると思う。その中のパワポの技術を鍛えることができるし、一番は度胸がつく。人前で堂々と相手に伝わる用に常に気に掛けるプレゼンをするこの授業はとても貴重だと私は考えている。
- ・社会に出て、PCを使う機会も増えるし、人前で何かを発表したりすることも増えると思う。この授業ではそのどちらの面においての力が自然に身に着けることができると思う

し、その準備段階としてやはり今のうちからやっておいた方が良いことなのでお勧めしたい。

- ・最初はプレゼンに慣れていなかったのにだんだんと回数を重ねていくとプレゼンの仕方やパワポの作り方などコツが掴めるようになり自信も出てくるようになりました。それはこの授業のおかげだというのは明らかです。この授業はプレゼンが多いけれどその分自分の進歩を感じ取れるのでとてもお勧めします。
- ・薦めたいです。プレゼンの授業だからプレゼンが何個もあるのは当たり前で、大変かもしれないけれど、自分のためになると思うので薦めたいです。パワーポイント作ったり、原稿を丸暗記したり、大変だったけど達成感を味わうことができました。
- ・薦めたいです。もちろんメディアに対する技能も確実に上がるので確実に仕事に役立つということと、人前で物事を発表することに対してこれだけ自分自身を研究できることはないと思うからです。自分を客観視できるからです。
- ・薦めたいと思います。なぜなら、この授業を通して、パワポの作成技術を向上させるだけではなく、自分がプレゼンしている姿をビデオで見返すことによって、今まで気づかなかった自分の癖や改善点、また良い点を見つけることができるから。授業履修後も、自分の発表や就職活動の面接などにも活かせると思うから。
- ・薦めたい。発表の話し方などのスキルはもちろんだが、ただ自分が知った情報を羅列するのではなく、発表の際に自分が発信する情報を聴衆がすんなりと、正しく受け入れられるようにする流れを考える能力が身に付くと思う。また、欠席するとあからさまに自分が遅れていくので、やりがいがあるので面白く緊張感を持って授業に参加できると思う。
- ・薦めたい。相手のことを考えわかりやすく意見を述べる力は他の授業でも、学校外においても求められる力だ。
- ・薦めたい。特に Microsoft をあまり使いこなせない人に必須だと思う。また、この授業は調査を含め、英語でプレゼンをするため、英語を専攻する英文科にとって応用的な授業であり、プレゼン準備中の進め方も学べる。
- ・相手に伝わる伝え方の能力は、どこに行っても必要な技術になるので是非薦めたいと思う。
- ・思う。私自身のプレゼン能力は確実に上がったと思います。そしてパソコン操作があまり得意ではないので、授業中先生が巡回して教えていただけるシステムはありがたかったです。
- ・薦めたい。2年次にも英語でのプレゼンをする授業もあるが、受ける刺激はこの授業のほうが大きい。グループで発表ではないので自己責任でプレゼンを初めから最後まで行

うので自分で考える力もついてくる。英語を使ってプレゼンをするという機会はそう多くないのでこの機会を生かすべきである。

- ・薦めたいと思います。なぜならば、パソコンと触れ合う機会を増やすことができます。それとともにこの授業では、パワーポイントの作成や人前での発表などが学べます。これから社会に出る前に学んでおくと、自信につながるいい機会だと考えるからです。
- ・プレゼンを多く行うことで人前に立つ緊張感に回数でなれたり、自分のプレゼンを動画で見直すことで、無意識のうちにしている癖を見つけ具体的改善点を発見できる点で、就活や今後社会でプレゼンを行う際に注意すべきことを確認できるのでお勧めする。
- ・おそらくプレゼンが得意という人は少ないと思う。自分もその一人でだからこそ、この授業で何か上達すればと受ける決め手となった。実際やってみて自分の不器用さに何度も気づかされた、でも同時にほかの人の発表を見ることは大変参考になった。何が自分に足りないのか、分かり易い発表をする人はどんな発表をするのかと勉強になることが多く、良い機会にもなった。苦手だと逃げる前にまず上手な人から何かを学ぼうとすることが大事だと感じる授業、ということを理解するためにも薦めたい。
- ・わたしはこの授業を後輩に薦めたいと思う。第一に自分の発表だけでなく他者の発表も聞くため良い刺激となる。ほかの人の発表で自分になかった点を取り入れ、「これはしないほうがよいな」と思う発表を聞いて自分の発表ではやらないよう意識できた。第二にプレゼンテーションはみんな行うとは限らないが、社会人になれば自分の意見を発表する機会は多くある。そのための準備として皆の前で発表する授業はなくてはならないと考えた。第三にアンケート作成の時に先生が作成してくれた表現集など、今後も役立つ資料が多かった。
- ・薦めたいと思います。講義型ではなく実践型だからというのがありますし、パソコンに触れる機会も多くなります。そして、授業では嫌でも1年間のうち人前に出て発表する回数が6回か7回くらいあったと思います。それに慣れることも必要だし、人前に出て自分が作成したものを用いて発表する機会はそんなになんないと思うからです。
- ・薦めたい。理由は、今後社会の会議でプレゼンを任せられるかもしれない時、この授業で学んだことがとても役に立つと思う。この授業では英語だったが、日本語のプレゼン能力も備わったのではないかと思う。また、この授業では真剣に取り組むので、終わった時の達成感がすごい。
- ・私のように編入生で、発表の授業の機会がなかった学生に特に薦めたいです。最初はやっぱり難しいことばかりだと思うのですが、先生に聞けばちゃんと教えてもらえるし、パソコンスキルやプレゼンスキルが授業を受ける前と受けた後では全く違ってくると思います。

6. おわりに

本実践では、注意事項や留意事項を説明することを除いて、教師はほとんど個別指導をしている。その指導は、机間巡視をして学習者が作業している PC 画面を覗きつつ、Excel や PowerPoint の使い方に関する質問に答えたり、英語の文法的なアドバイスや構成のアドバイスをして回ったりするというものである。このような個別指導を行う時間を十分に確保できたのは、一斉に伝えたい内容を授業時間内に説明するのではなく配付資料で処理しているからである。

学習者のやる気が出るように取り組みやすい題材を課題として選び、様々な場面の個別指導で個々の不安感を減じ、プレゼンテーションや準備をあえてペアやグループではなく個人で行わせることでプレゼンテーションの準備や発表に慣れつつ各自の責任感と自律性を育てることを意図した実践である。まだまだ細かい点では授業の改善点があるが、学生からのアンケート結果は勇気づけられるものが多かった。筆者の授業をよりよくするためにまじめに回答してくれた学生たちに感謝する。